報道関係各位

2024年9月19日
「Space In-Between」PR事務局

日本とスイスのアーティストの吉川静子と
スイスのグラフィックデザイナー・ミューラー＝ブロックマンの初の大回顧展　開催

Space In-Between：
吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン

2024年12月21日（土）～2025年3月2日（日）／大阪中之島美術館 5階展示室

《 報道関係者お問い合わせ先 》
「Space In-Between：吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン」PR事務局（TMオフィス内）
担当：馬場・永井・西坂
TEL：090-6065-0063（馬場）　090-5667-3041（永井）
テレフォンセンター：050-1807-2919　FAX：06-6231-4440　E-MAIL：SIB@tm-office.co.jp

開催趣旨

吉川静子（よしかわしずこ）（1934-2019)とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン（1914-1996）は、それぞれ進むべく道を開拓しながら、夫婦として創造的な生涯を共にした芸術家です。吉川は人生の大半をスイスで過ごし、1960年代・ 70年代に抽象絵画と彫刻により女性芸術家として注目されます。

チューリッヒにて 1965年頃、
Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation

一方ミューラー＝ブロックマンは、洗練されたタイポグラフィと「グリッドシステム」によるグラフィックデザインで、1950年代以降スイスを代表するデザイナーとして国際的に知られるようになりました。

本展では、吉川の芸術性、ミューラー＝ブロックマンの構成的デザインを表現した作品を展示。分野を超えた二人の活動の軌跡を堪能できる大回顧展です。

見どころ

1．スイスを代表する国際的なタイポグラファーでありグラフィックデザイナーのヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン(1914-1996)と、そのパートナーであり芸術家の吉川静子(1934-2019)の没後初、世界初の大規模な二人展

2．デザインとアートの豊かな融合、スイスと日本の唯一無二の交流の実例となる展示内容

3．スイスから約130点の吉川静子作品が来日。日本初お披露目

4．ヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン作の約60点のグラフィック作品を展示「グリッドシステム」の原点、『ノイエ・グラフィーク』誌も展示

吉川静子、ヨゼフ・ミューラー＝ブロックマンについて

吉川静子（1934–2019）
デザイナーから芸術家へと転身しながら、教養ある芯の強い女性として生涯の大半をスイスで送った。ヨゼフ・ミューラー＝ブロックマンと結婚し、チューリッヒを拠点に芸術活動を行った。J・M＝ブロックマン没後、大きな喪失感の中、太陽をテーマとした絵画を描き始め、晩年はシルクロードをテーマとした作品を制作し、自身の芸術をさらに発展させ、正統的「モダン」の形式化した伝統から逸脱していった。絵画、立体絵画、版画作品の大半はチューリッヒにある。

ヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン（1914–1996）
スイスを代表する国際的なグラフィックデザイナー、タイポグラファー。1960年代–80年代にかけて数度にわたり来日。亀倉雄策など日本のデザイナーと親交を深める一方、デザイン学校や美術大学で教鞭をとり日本のデザイン教育にも貢献した。紙面における文字組みと構成の方法論についてまとめ命名した「グリッドシステム」は、デザイン史上の金字塔というべき理論として今日まで大きな影響を与え続けている。優れた教育者、ポスター・デザイナーとして知られると同時に、どのような人にも優しい人柄だったことが今日まで語り継がれている。

吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン 1985年頃
Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation

第1章　Space In-Between：吉川静子

1　初期作品　「シークエンス」と「トランスフォーメーション」

デザインからアートへ舵を切った吉川がアーティストとして活動を始めた当初の作品群を紹介します。小さな凹凸の集合による正方形の立体彫刻は色面の差異によって連続したシリーズをなしています。こうした「シークエンス」や「トランスフォーメーション」は、ヘリット・リートフェルト（1888-1964）からマックス・ビル（1908-94）に代表されるウルム造形大学教授陣へ継承された「コンクリート・アート」の流れを組む作品群です。デザイナーとして確かな基礎力を身に着けた吉川は、この立体彫刻によってアーティストとして第一歩を踏み出します。ここから、建築物も実現しており、デザインからアートへと学びを深めた吉川の芸術性は大きく開花していきました。

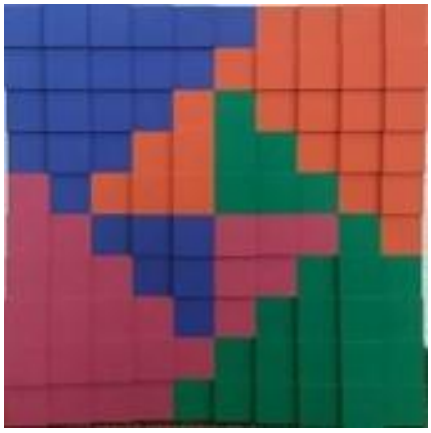
《r13 11 シークエンス　No. 4》1973-74年

《r14 11 シークエンス　No. 5》1973-74年

《r15 11 シークエンス　No. 6》1973-74年

《r16 11 シークエンス　No. 7》1973-74年

《r17 11 シークエンス　No. 8》1973-74年



《r18 11 シークエンス　No. 9》1973-74年

※すべて、吉川静子とヨゼフ・ミューラー=ブロックマン財団蔵、
Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation

2　瞬間性と空気感の表現　　「色影」

「シークエンス」「トランスフォーメーション」で色面表面の転換と連続性に取り組んだ吉川は、次は、立体彫刻の表面にではなく、凹凸の薄いわずかな側面のみに色を塗った「色影」というシリーズに取り組んでいきます。ヨゼフ・ミューラー＝ブロックマンとの二人のアトリエで、まるで科学実験を行うかのように微量の絵具を足して調合し、色を塗っていきました。「色影」は角度を変えることで見え方が変わっていく作品です。側面の色が残像となって白い表面を覆って、一瞬一瞬で見え方が移り変わります。伝統的なコンクリート・アートから離れ、瞬間性や空気感をテーマにし始めたシリーズであり、色は光や影、隣り合う色によっても見え方が変わる相対的なものであるという理論に基づいています。

《色影　No. 68》1978/1979年

《r44　色影》1976/1979年

《色影　No. 21》1977年

3　対立と空隙の果てしないエネルギー　　「宇宙の織りもの」

「色影」で立体彫刻によって色彩の見え方の移り変わりに取り組んだ吉川は、今度は平面のキャンバスによる表現に取り組んでいきます。十文字をモチーフに二つの線が重なる点をぽっかりと穴を開けたような空隙にして、その形を大きくしたり小さくしたりして、白いキャンバスにただただ重ねていくのです。十文字の空隙に挟まれた向い合せになった色彩は、その多くが補色の関係にあります。対立と空隙とを重ねることで、平面でありながら立体性を帯び、内部は果てしない宇宙のようなエネルギーに満ちています。色彩と空隙の緻密な効果によって、キャンバス全体が、神秘の高貴な光に覆われているかのようです。このシリーズは、さまざまな形のキャンバスで展開され、多数のバリエーションが残されています。

《m433　宇宙の織りもの―光りつつ　3》
1991/1993年

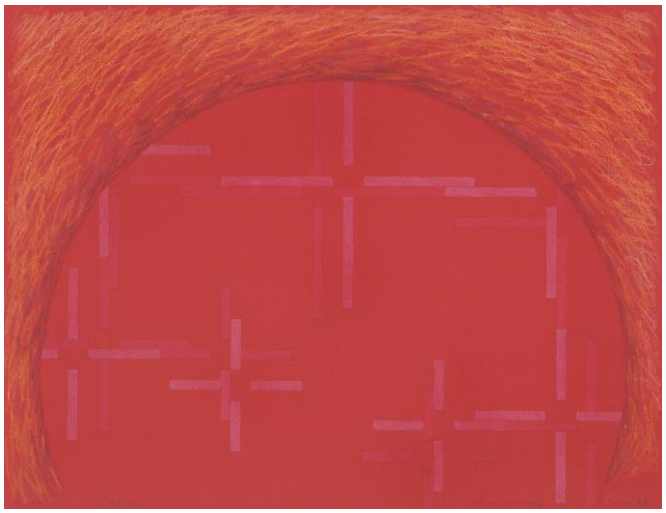
《m454　宇宙の織りもの―光りつつ　7》
1992/1995年

《m528　宇宙の織りもの―息づく大地　19》
1999/2000年

※すべて、吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン財団蔵、
Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation

4　太陽の生命力　　「ローマ」

ヨゼフ・ミューラー＝ブロックマンが万里の長城を旅行中に倒れそのまま帰らぬ人となったのは、吉川静子にとって大きすぎる精神的な痛手でした。二人で暮らした自宅兼アトリエにいるのが耐えられず、ローマに場所を移して、しばらく療養生活に入ります。ある日、ローマで見た太陽の、燃えるような生命力に感動し再び生きる力をもらった吉川は、これをテーマに制作に取り組みます。最初に描いた地平線に沈む赤々とした太陽の姿は、燃えたぎるようです。色彩や表現を変えてさまざまなバリエーションが生み出されていきました。吉川が受けた太陽の生命力そのものをテーマにした作品から、色彩や宇宙といった、吉川が「宇宙の織りもの」で行ったテーマへの変遷も見られます。



《z606　ローマ》1998年

《z637　ローマ》1999年

《z646　ローマ》1999年

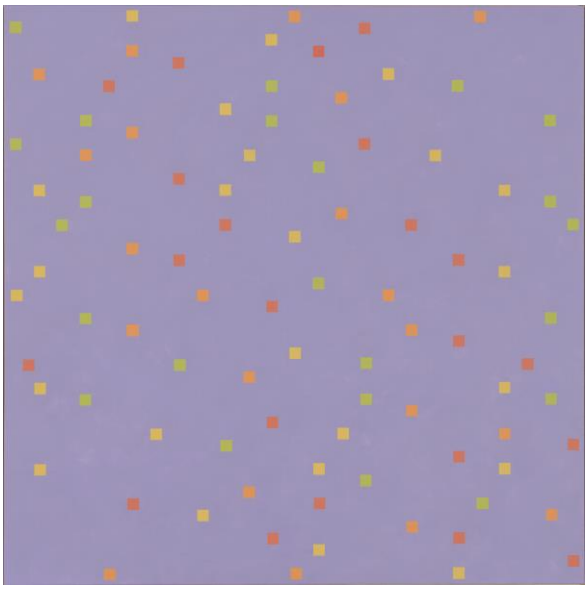
※すべて、吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン財団蔵、
Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation

5　ルーツといのち　「マイ・シルクロード」「生命の脈動」

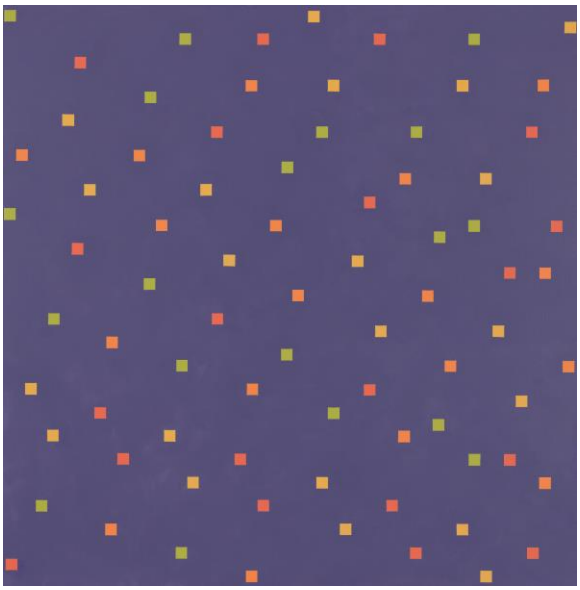
ローマからスイスに戻ってから、吉川はシルクロードをテーマにしたシリーズを制作します。吉川にとってのシルクロードは、ウルム造形大学に入学した際に渡った海の道でした。スエズ運河経由で日本からドイツへ移動した吉川静子が航路で見たコバルトブルーの夜空を背景とした星空、永遠に続く海の水面に宿る光を、「宇宙の織りもの」シリーズの十文字型で表現しています。 こうした十文字型のモチーフは「生命の脈動」シリーズでは消え、代わりに軽やかなドットがキャンバスに置かれています。動きを孕んだドットの連続は、「宇宙の織りもの」のような内的エネルギーを帯び、内なる動きと生命力を感じさせます。これまで、宇宙や太陽など自然界のエネルギーをテーマにしてきた吉川は、晩年には、今度は内なる生命力に目を向け、制作を続けたのです。

《m688　マイ・シルクロード　54》2005年

《m764　マイ・シルクロード　117》2010/2011年



《m779　生命の脈動　15》2011年



《m780　生命の脈動　16》2011/2012年

※すべて、吉川静子とヨゼフ・ミューラー=ブロックマン財団蔵、
Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation

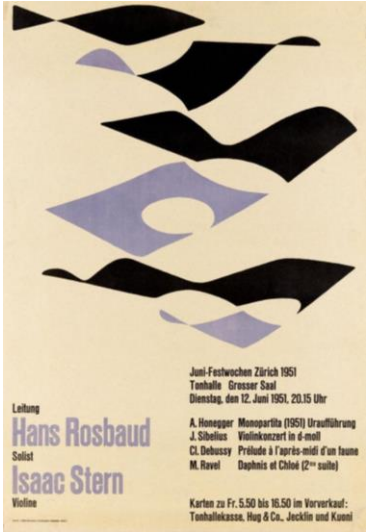
第2章
Space In-Between：ヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン

1　初期作品　ラッパーズヴィルのために

チューリッヒ湖畔の町、ラッパーズヴィルに生まれ育ったヨゼフ・ミューラー＝ブロックマンが、バラ庭園で有名な故郷のために制作したポスター他、初期作品を紹介します。キャリアをスタートさせる前には、自画像やスケッチなどの絵を数多く描いていたミューラー＝ブロックマンでしたが、チューリッヒ工科大学で学びデザイナーとして本格的に活動を始めると、画面上にイラストレーションと文字を構成したポスターを制作するようになります。大学の教授陣や同時代のグラフィックデザインからの影響も伺える作品群です。

《ラッパーズヴィル》1937年

《スイスの舞台美術》1949年



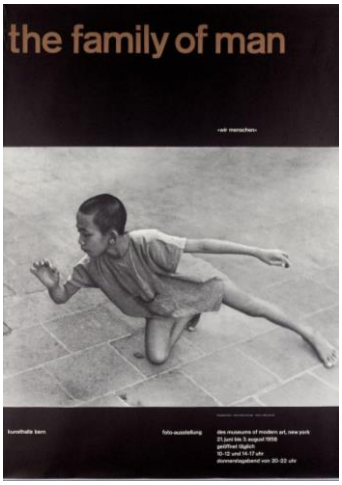
《6月の祝祭週間　チューリッヒ》1951年

※すべて、大阪中之島美術館蔵©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland

2　ヴィジュアル・コミュニケーションとフォトコラージュ

ミューラー＝ブロックマンは、先駆的に写真をポスターに取り入れたデザイナーでもありました。スイス自転車クラブのシリーズはその代表的な例です。フォトコラージュによってモチーフの比率を変え、インパクトを与える表現を行っています。1960年代以降のポストモダニズムのデザインにおいては、「ヴィジュアル・コミュニケーション」という言葉がデザインの命題として求められようになりました。デザインはこうであるべきという作り手の思想の確立を希求した時代から、受け手にどのように伝わるかにデザインの命題が移り変わっていく中で、ミューラー＝ブロックマンの作品は、次なる世界的なデザイン潮流の中でお手本となったのです。

《スイス自動車クラブ　子供を守れ！》1953年、
サントリーポスターコレクション（大阪中之島美術館寄託）
©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland

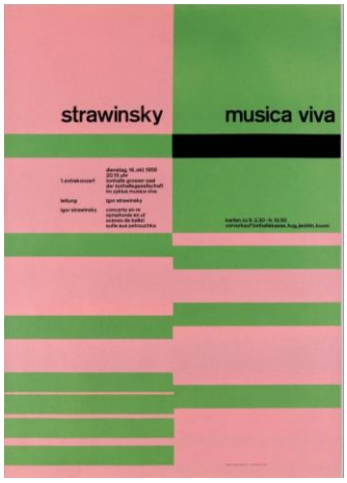


《ザ・ファミリー・オブ・マン》1958年、大阪中之島美術館蔵
©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland

3　音楽とデザイン

交通事故で不慮の死をとげた最初の妻、フェレーナ・ブロックマンはヴァイオリニストで、チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団ほかチューリッヒのいくつかの楽団に属す音楽家でした。こうして音楽への道に導かれたミューラー＝ブロックマンは生涯にわたって多数のコンサートのポスターを手掛けています。中でも「ベートーベン」のポスターは、日本でも1958年『アイデア』誌に紹介された代表作です。「ムジカ・ヴィヴァ」シリーズにおいては、グリッドシステムのさまざまなバリエーションとタイポグラフィとに絶妙な色彩感覚が重なり、音楽ポスターにふさわしい豊かなハーモニーが奏でられています。

《第4回特別コンサート　ベートーベン》
1955年、個人蔵（スイス）
©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland



《ムジカ・ヴィヴァ　ストラヴィンスキー》
1956年、大阪中之島美術館蔵
©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland

《ムジカ・ヴィヴァ　1972》
1972年、大阪中之島美術館蔵
©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland

4　グリッドシステム

タイポグラフィ、イラストレーション、写真をどのように紙面上に構成するかということについては、1920年代以降ヨーロッパのデザイナー、芸術家を中心にさまざまに試み、提唱、実践されてきました。ミューラー＝ブロックマンはこうした構成の流れをまとめると共に、空間や地理をも含むさまざまな実践の例を交えつつ、『グリッドシステム』（1981年初版）として理論書にまとめています。「ノイエ・グラフィーク」誌は、グリッドシステムが実践された、ミューラー＝ブロックマン他による雑誌です。多言語による文字組と写真の緻密な構成の紙面は、模範的なグリッドシステムによるものでした。

《チューリッヒ美術館　コレクション展》
1953年、大阪中之島美術館蔵
©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland

《フィデリオ》1960年頃、大阪中之島美術館蔵
©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland

《ムジカ・ヴィヴァ　1970》1970年、大阪中之島美術館蔵
©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland

関連イベント

◆オープニング・トーク・セッション（午前の部）

日　時：2024年12月21日（土）11:00～13:00（受付:10:30～）
登壇者：ラース・ミュラー（Lars Müller Publishers主宰／吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン財団理事長）ほか
会　場：大阪中之島美術館 1階ホール
定　員：150名
申　込：事前申込不要・聴講無料　※ただし、本展の観覧券（半券可）が必要

◆オープニング・トーク・セッション（午後の部）

日時：2024年12月21日（土）14:00～16:00（受付:13:30～）
登壇者：ガブリエル・シャード（美術史・建築史家／チューリッヒ工科大学講師／吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン財団理事）ほか
会場：大阪中之島美術館1階ホール
定員：150名
申込：事前申込不要・聴講無料※ただし、本展の観覧券（半券可）が必要

◆学芸員によるギャラリートーク

日　時：2025年1月5日（日）、2月24日（月・祝）15:00～16:00
会　場：大阪中之島美術館 5階展示室
定　員：30名
申　込：事前申込制・参加無料　※ただし、当日展示室に入場するための観覧券が必要です

展覧会オリジナルグッズ

本展メインビジュアルをモチーフとしたオリジナルトートバッグ（2種）、吉川とブロックマン作品のポストカード（各5種、計10種）や、吉川静子関連書籍、ヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン関連書籍、その他スイス関連商品を特設ショップにて販売します。

<u>展覧会公式図録</u>

B5版128頁
執筆者：井口壽乃（埼玉大学名誉教授）、白井敬尚（グラフィックデザイナー、武蔵野美術大学教授）、ラース・ミュラー（Lars Müller Publishers主宰／吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン財団理事長）、ガブリエル・シャード（美術史・建築史家／チューリッヒ工科大学講師／吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン財団理事）、平井直子（大阪中之島美術館主任学芸員）

チューリッヒにて 1975 年頃
Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation

開催概要

展覧会名：Space In-Between：吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン

会　　期：2024年12月21日（土）～2025年3月2日（日）

休 館 日 ：毎週月曜日、12月31日（火）、2025年1月1日（水・祝）、14日（火）、2月25日（火）
※2025年1月13日（月・祝）、2月24日（月・休）は開館

開場時間：10:00～17:00（入場は16:30まで）

観 覧 料 ：一般　　1,700円（前売・団体　1,500円）
高大生　1,100円（前売・団体　900円）
※税込価格。
※前売ペアチケット（一般2枚セット券）2900円（税込）
※前売券販売期間：2024年11月22日（金）10:00 – 12月20日（金）23:59
※団体料金は20名以上。団体鑑賞をご希望される場合は事前に大阪中之島美術館公式ホームページから
お申込みください。
※学校団体の場合はご来場の4週間前までに大阪中之島美術館公式ホームページ学校団体見学のご案内から
お申込みください。
※障がい者手帳などをお持ちの方（介護者１名を含む）は当日料金の半額（要証明）。
ご来館当日、2階のチケットカウンターにてお申し出ください。（事前予約不要）
※本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。
※事前予約制ではありません。展示室内が混雑した場合は、入場を規制する場合があります。
※災害などにより臨時休館する場合があります。
［相互割引］本展観覧券（半券可）の提示で、4階で開催される「歌川国芳展 ―奇才絵師の魔力」
2024年12月21日（土）– 2025年2月24日（月・休）の当日券を200円引きでご購入いただけます。
（1枚につき1名様有効。チケット購入後の割引および他の割引との併用は不可）

チケット販売場所：大阪中之島美術館チケットサイト、ローソンチケット、
ローソンおよびミニストップ各店舗 (Lコード: 56212)

会　　場：大阪中之島美術館 5階展示室　〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島4-3-1
http://nakka-art.jp

主　　催：大阪中之島美術館

特別協力：Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation

後　　援：在日スイス大使館／Vitality.Swiss

助　　成：一般財団法人 安藤忠雄文化財団

お問い合わせ先：06-4301-7285（大阪市総合コールセンター）受付時間 8:00～21:00（年中無休）

《 報道関係者お問い合わせ先 》
「Space In-Between：吉川静子とヨゼフ・ミューラー＝ブロックマン」PR事務局（TMオフィス内）
担当：馬場・永井・西坂
TEL：090-6065-0063（馬場）　090-5667-3041（永井）
テレフォンセンター：050-1807-2919　FAX：06-6231-4440　E-MAIL：SIB@tm-office.co.jp